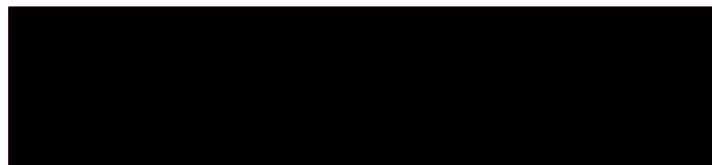


第2学年 国語科学習指導案



1 単元名

お気に入りの遊びを紹介しよう

2 教材名

おにごっこ (光村図書 国語二 赤とんぼ)

3 単元の指導目標

第1学年及び第2学年

C「読むこと」イ

B「書くこと」ア

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」イ (ア)

◎「おにごっこ」を、問いと答えの関係を意識しながら読むことができる。

○お気に入りの遊びを紹介する文章を、問いと答えの文型を使って書くことができる。

4 つけたい力

◎問いと答えの関係、事柄の順序、接続詞への着目などの文構成を意識しながら内容を正確に読み取る力

◎経験したことを条件に合った文構成で書く力

5 単元を貫いて位置付ける言語活動とその説明

単元を貫いて位置付ける言語活動 (第1・2学年 C(2)ウ B(2)イ)

「おにごっこ」について書かれている文章を読み、お気に入りの遊びを紹介する文章を書く。

・「おにごっこ」について、問いと答えを示しながら、尾括型で書かれた文章を読み、同じ文構成でお気に入りの遊びを紹介する文章を書く言語活動である。

6 単元の評価規準

(1) 経験したことを思い出しながら、説明的な文章を読もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)

(2) 文章全体の構成をとらえ、自分の経験と結び付けて読んでいる。(読む能力)

(3) 経験したことを基に、書くための材料を集め、簡単な構成を考えて書いている。(書く能力)

(4) 言葉には経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(言語についての知識・理解・技能)

7 単元について

(1) 児童について

1学期「たんぽぽのちえ」の学習で、児童は、「様子」と「わけ」を、時間を表す言葉や接続詞に注目しながら読む学習をしてきた。その学習を生かし児童が自分で観察をしているミニトマトについて簡単な説明文を書く言語活動を行った。2学期の「どうぶつ園のじゅうい」の学習では、自分の経験と結び付けて感想文を書く活動を行ってきた。

これまでの学習で、児童は時間の経過にそって観察記録文を書いたり、自分の経験を結び付けながら感想文を書いたりする力をつけてきた。しかし、説明的文章によくつかわれる「問い」「具体例」「答え」のような文構成に気づいたり、文章全体をおおまかにとらえたりすることはまだまだ不十分である。

そこで、児童にとって身近な遊びである「おにごっこ」について説明している文章に触れ、構成を理解しお気に入りの遊びを紹介する文章を書く活動は児童にとって価値のある学習であると考えられる。

(2) 教材について

本教材は、「おにごっこ」の多様性に着目した説明文である。「どんな遊び方があるのか。」「なぜそのような遊び方をするのか」という二種類の問いに応答するかたちで論理が展開する。具体例の遊び方は三種類ある。文型は「はじめ・中・おわり」の構造を明確にもった尾括型である。これらのことから、説明文の特徴を学ぶのにふさわしい教材であると考えられる。

(3) 指導に当たって

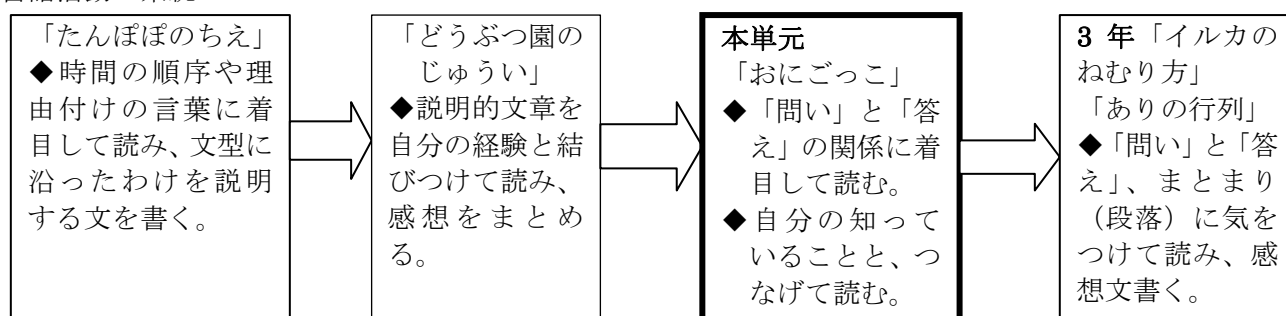
第一次では、学習の見通しを持たせるために単元のゴール像を示し、学習計画を立てる。ゴール像については、お気に入りの遊びを紹介し合い「2年1組の遊びブック」を作成することを確認する。教師が自

作の紹介文を提示することでゴール像を示す。また、第1次であるため、遊びは児童の身近な生活の一部であることを共通確認し、学習への関心意欲を高めたうえで学習に入りたい。

第二次では、教材文を読み進めることで次のこと次のような力をつけさせたい。一つ目は、「問い・具体例（説明）・答え」が「はじめ・中・終わり」の文構成で書かれていることを理解させたい。本単元は、2年生で、問いと答えに着目するはじめての学習である。しかも、一年生までの学習では、問いと答えの教材文で、具体例で答えを示しているものばかりなので、終わりに、問いの答えがくる形式のものは今回の教材文がはじめてである。そこで、既習の教材文と比較することで「おにごっこ」の文構成について理解させたい。二つ目は、教材文の内容理解についてである。教材文には、みんなで仲良く遊ぶためには、条件を整理して遊ぶと楽しく遊ぶことができると記述してある。これは、現在の学級が抱える課題と同じであり、様々な活動に共通することであると考え。第三次のお気に入りの遊びを紹介する条件にもあてはまる。

第三次では、お気に入りの遊びを紹介する文章を書く。紹介文を書くための材料を自分の経験をもとに集めてから書く。その際、「おにごっこ」の教材文で学習した構成を活用して書くことを確認する。

(4) 言語活動の系統



8 指導計画 (全10時間)

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点	評価
一	1	・好きな遊びについて、知っていることを話し合う。 ・紹介文について知り、学習計画を立てる。	・紹介文を書くことを知り、そのための学習計画を考えさせる。	・今後の学習に意欲をもち、学習計画を立てている。
二	2	・①段落を読む。 ・二つの問いを読み取り、自分の経験に照らし合わせて答えを考える。	・教科書を全部提示するのではなく、①段落だけ提示することで問いを意識させる。	・問いについて知り、答えを読み取る意識を持っている。
	3	・②③段落を読む。	・「どんな」と「なぜ」が分かるように区別させ、前時の「問い」に対する「答え」であることを意識させる。	・二つの具体例から問いに対する答えを見つけている。
	4	・二つの問いの答えを見つめる。		
	5 本時	・④⑤段落を読む。 ・3・4時の学習を生かし、答えの部分を見つめる。	・3・4時の学習が、「おにごっこ」の中の具体例であることを意識させ、終わりがあることを予想させる。	・⑤段落の中の「問い」に対する「答え」を見つけている。
	6	・⑥段落を読む。 ・中が具体で終わりが抽象であるというとらえに近づく。	・問いと答えの関係、問い・具体例・答えの三部構成に気付かせる。	・文章全体が三部の構成になっていることを理解している。
	三	7	・紹介文を書くために必要な材料をメモする。	・1時で提示した紹介文の要素を確認する。
8		・紹介文を書く。	・前時で確認したことを入れて紹介文を書く。	・紹介文を条件に合わせて書いている。
9		・発表し合い「2年一組の遊びブック」を完成させる。	・友達の紹介文を文構成に気をつけながら聞く。	・文構成に気をつけながら発表を聞いている。

10	・単元で身に付けた力を確認する。	・友達の見聞文の良さを認めるとともに、身に付けた力を発表させる。	・友達の良さや、自分が身に付けた力についてまとめている。
----	------------------	----------------------------------	------------------------------

9 本時の指導

(1) 本時の目標

前時の学習を生かし④⑤段落から、答えの具体例二つを見つけることができる。

(2) 本時の展開

時	学習活動と学習内容	指導の手立てと評価
導入 4分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題をとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">④⑤だんらくに書かれている答えを見つけよう</div> 3 学習の流れを確かめる。	○一文ずつ確認したこと・内容面について想起する。 ○一人で考えるところ・みんなで考えるところ・先生と考えるところなど、誰と何をやるのかを確認する。
展開 31分	4 ⑤段落を音読する。 ・音読しながら「どんな遊びか」「なぜそのような遊びをするのか」を考えながら読む。 5 答えの部分にサイドラインを引く。(一人学び) 6 全体で確かめる。 ・確認後は動作化を取り入れて、読み取ったことを自分の経験と照らし合わせる。 7 ⑤段落の内容を読み取りをする。 ・「ところが」という接続詞を提示し、どんな内容が続くのかを予想させる。 8 答えの部分の短い言葉にまとめる。 ・「どんな遊びか」「なぜそのような遊び方をするのか」について一文ずつまとめる。	○一文ずつ読んで遊び方・わけと分類していく。 ○三つ目の遊びには、気をつけなければならない点があることを、「ところが」から、予想させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"><評価> 遊び方とわけについて、理解している。 【ノート・発言】</div>
終末 10分	9 学習のふり返しをする。 ・今日の学習で分かったことを発表する。 10 次時の予告をする。 ・次は、「おわり」の部分を読むことを確認する。	○学習の流れをもとに、ふり返しをする。

(3) 評価

観点	評価	十分達成	概ね達成	努力を要する児童への手立て
読むこと	④段落の中から遊び方とわけを見つけている。	④段落から遊び方とわけをみつけ、自分のことばでまとめている。	④段落の中から遊び方とわけを見つけている。	教師や友だちと対話しながら、④の遊び方とわけを見つけて内容を理解することができる。

1 単元名 お話のじんぶつと自分をくらべて読もう

2 教材名 「わたしはおねえさん」 (光村図書 国語二年 下 赤とんぼ)

3 単元の指導目標

第一学年及び第二学年 B「書くこと」ア
C「読むこと」ウ・エ・オ
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」イ・カ

- ◎ 登場人物の行動や場面の様子から想像を広げながら読むことができる。
- ◎ 自分の経験と結び付けて、感想をもつことができる。
- 今の自分と過去の自分とを比べて、文章を書くことができる。

4 身につけたい力

- ・ 登場人物の言動から想像を広げ、自分の経験と結び付けて読む力
- ・ 自分の経験と結び付けた感想を、主語と述語に注意して書く力

5 単元を貫いて位置づける言語活動とその説明

(第1学年及び第2学年 B(2)②エ)

- ・ 文章の内容と自分の経験を結び付けて感想を書く。
- ・ 文章の内容を共感的に受け止めたり、想像を広げながら読んだりすることに加え、「わたしなら…」と主体的に読み、文章の内容に自分の経験を結び付ける言語活動である。

6 単元の評価規準

- (1)等身大の人物が描かれた物語を、自分の体験や気持ちと重ねながら興味をもって、読もうとしている。(関心・意欲・態度)
- (2)時、場所、人物、出来事などに注意して、大体的内容を読み取っている。(読む能力)
- (3)心に残った言葉や文を書き抜き、自分の経験を思い出して、登場人物と似ているところや近いところ、違うところを比べている。(読む能力)
- (4)身の回りの出来事、経験を思い出して、書くことを決めている。(書く能力)
- (5)主語と述語の関係に注意している。(読む能力)

7 単元について

(1)児童について

児童は、学習に対し真剣に取り組み、教材文の読み取りや友達の話聞く際は共感的な姿勢をとることが多い。学習意欲は高いが、自らの考えを発信することには消極的である。文学的な文章においては、登場人物に自分を同化させて気持ちを読みとることに優れているが、自分と比べ

たり、登場人物に何かを言ってあげたりすることには抵抗がある。また、語彙の少なさから、思ったことや感じたことを表現することを苦手としている。

「スイミー」では、想像を広げながら読み、感想をもつことができた。「黄色いバケツ」では、人物に言ってあげたいことを書く際に、「どんなことを言えばいいかわからない」と言う児童が多かった。「お手紙」では、登場人物の行動を読みとることはできたが、人物を表す言葉がすぐに出てこなかった。2学期から国語辞典を活用しているため、1学期よりは確実に語彙は増えているが、まだ成果は見られない。本単元の感想を書く言語活動で辞典を活用した成果を生かし、身に付けた語彙を使って文章を書く力を養うものとする。

(2)教材について

児童の成長の実感にあふれた作品である。自分より幼いもの、弱い立場にある者を理解し、理不尽な対応にも余裕をもって接せられる心の成長を自分に引き寄せて読み取ることができる。

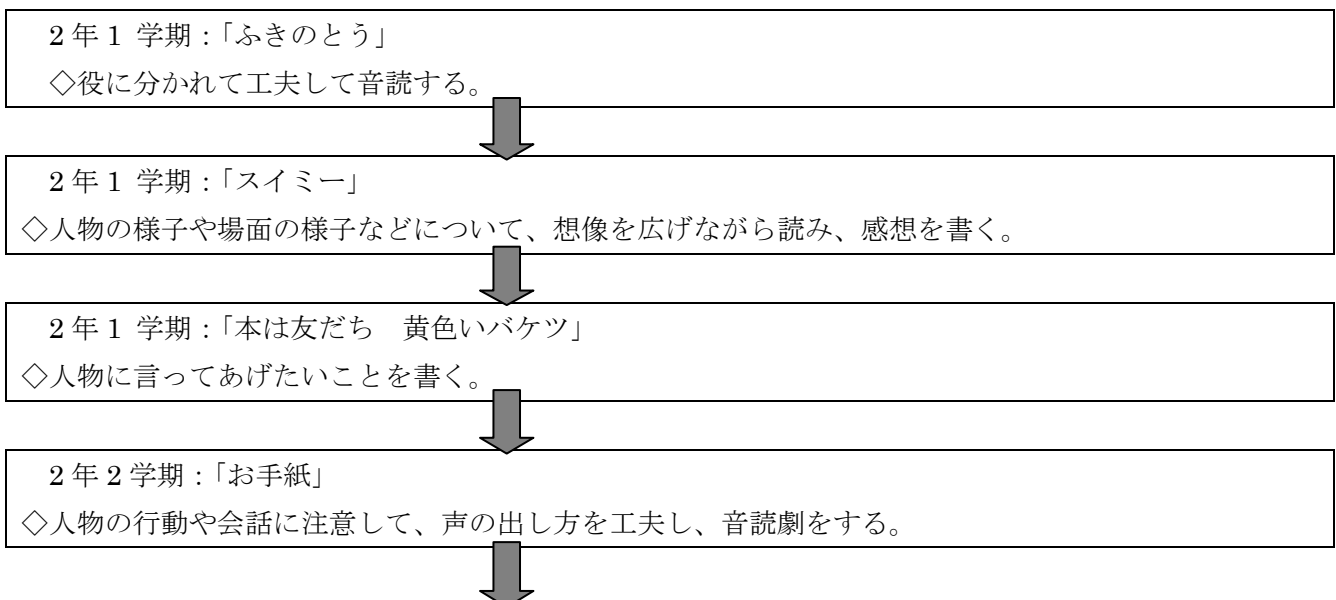
主人公「すみれちゃん」は児童と同じ2年生である。「すみれちゃん」の心の成長を感じ、自分の行動を振り返りながら主人公に共感し、楽しく読み進めていくことができる。「すみれちゃん」の心情を読み取りながら、自分の経験と重ね合わせて、「わたしなら…」と自分と比べた感想をもつことができる教材である。

(3)指導にあたって

本単元では、登場人物を自分と比べながら読み、自分の生活経験を結び付けた感想文を書き、単元の終末には自分が1年生のころから成長したところを書いて発表会をする。そのために、教材文の登場人物の言動と自分を比べながら主体的な読みをしていく。

1次では、自分の生活経験とお姉さんのイメージを持たせ、教材文を読む。この際、「いつ、だれが、何をした」などの内容の大体を捉え、主語と述語の関係を明確にして簡単なあらすじを書く。2次では、登場人物の言動からその心の変化を読み取り、自分の生活経験と比べる。登場人物に共感するだけでなく、自分と似ている点、異なる点を見つけ、感想文を書く。単元の終末では、読み取ったことを生かし、自分の成長を実感させるために、成長したところを書いて発表会をする。読み取ったことを書くだけでなく、それを聞き手に伝わりやすいよう話す力も合わせて指導する。

(4)言語活動の系統



本単元

◇文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想を書く。

2年3学期：「スーホの白い馬」

◇人物の行動を中心に想像を広げながら読み、自分の感想をもとに、あらすじを紹介する。

8 指導計画

次	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準
一	1	おねえさんのイメージをもつ。 簡単なあらすじをとらえて、初発の感想を書く。	・ 登場人物、いつ、どこ、出来事をしっかり書かせる。	・ 学習課題を見通し、初発の感想を書いている。
	2	学習計画を立てる。	・ 本単元のゴールを明確にする。	・ 話の大まかな流れを捉えている。
二	3	主人公「すみれちゃん」の人物像をとらえる。それぞれの書いた人物像を交流し、感想を書く。	・ すみれちゃんのもつお姉さん像を確認する。 ・ 一人一人の思いや感じ方を大切にす。	・ すみれちゃんの人柄をとらえ、感想を書いている。
	4	すみれちゃんがしたりっばな行動と自分をくらべ、感想を書く。	・ すみれちゃんの行動を書き抜き、自分だったらどんな行動をするか順に考えさせる。	・ すみれちゃんの行動をとらえ、感想を書いている。
	5	ノートに絵を描かれたすみれちゃんの気持ちを読み取り、感想を書く。	・ 気持ちを読み取るために、気持ちを表す言葉、行動に注目させる。	・ すみれちゃんの気持ちを読みとり、感想を書いている。
	6	すみれちゃんの心の変化を読み取り、感想を書く。	・ 自分ならどうするかを考えて書かせることにより、自分に引き寄せた読み方ができるようにさせる。	・ すみれちゃんの心の変化を読み取り、感想を書いている。
	7	かりんちゃんの絵を消さなかったすみれちゃんの気持ちを読み取り、感想を書く。	・ すみれちゃんの人柄を基に考えさせる。	・ すみれちゃんの心情を読みとり、感想を書いている。
三	8	2年生になってお兄さん、お姉さんになったと思うことを書く。	・ 登場人物に重ね合わせ、自分が、2年生になり変容したことに気づかせる。	・ 身の回りの経験や出来事を思い出して書いている。
	9	前時で書いたものの発表会をする。	・ 発表会のあと、友達の発表のよいところを見つけて交流するためにメモをとらせる。	・ 声の大きさ、速さ、顔の向きなどに注意して話している。

8 本時の授業

(1)目標

ぐちゃぐちゃのノートを見た後、笑い出したすみれちゃんの心の変化を読み取り、感想をもつことができる。

(2)展開

	学習活動と学習内容	・指導の手立て ◇評価
導入 7分	1. 前時の学習を想起する。 2. 本時で扱う部分を音読する。 3. 本時の学習課題を把握する。 すみれちゃんがわらいだしたわけを考えよう。	・ 本時の最初と最後のすみれちゃんの心の変化を顔マークで明確にする。 (泣きそう、怒りそう→笑顔)
展開 30分	4. どうしてすみれちゃんはわらいだしたのか読みとる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 笑い出したわけを表している文にサイドラインを引く。 ・ サイドラインを引いた文を書き抜く。 5. 書き抜いた部分から、どうしてぐちゃぐちゃの絵がかわいく見えてきたのか読み深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ コスモスに見えないぐちゃぐちゃのノートの様子をとらえ、どんな気持ちになるか自分の考えをもつ。 ・ かわいく見えてきたすみれちゃんの人柄をもとに理由を書く。 6. すみれちゃんと同じような経験を出し合う。	・ 努力を要する児童には、わけを表す言い方を見つけさせる。 「～からです」「～のです」「だって～」 ・ 一度で正確に書き写すために、声に出して読みながら書かせる。 ・ 「コスモスになんかちっとも見えない」ことをしっかり読みとらせる。 ・ 「見えた」と「見えてきた」のちがいを明確にする。 ・ 許すだけではなく、かわいい愛おしいと感じたちがいを明確にする。
終末 8分	7. 本時の感想を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ すみれちゃんの心の変化と自分の経験を結び付けた感想を書く。 8. 次時の学習を予告する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ かりんちゃんの絵を消さなかったすみれちゃん的心情を読みとる。 	◇ すみれちゃんの心の変化を読み取り、自分の感想を書いている。

(3)本時の評価規準

観点	評 価	十分満足	おおむね満足	努力を要する児童への手立て
読むこと	すみれちゃんの心の変化を読み取り、自分の感想をもつことができる。	すみれちゃんの言動から心の変化を読み取り、自分の経験を重ね合わせた感想を書いている。	すみれちゃんの心の変化を読み取り、自分の感想をもつことができる。	すみれちゃんの心を表す言葉に着目させ、その変化の様子について考えさせる。